

SHIN CLUB 256

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「Laule' a Moto Azabu(写真左)」と「Cadre Motoazabu(写真右)」 撮影：アック東京

この地に住み続けること

写真は昨年3月に竣工した、麻布十番商店街の一角の2棟のテナント併用住宅です。親御様から相続された土地に新たなビルを2家族で同時に建設されました。

建て主 KH 様の家の家業は、もともとお祖母様の兄上が埼玉から引っ越してきた「炭屋」さんだったそうで、明治以降、芝の増上寺にも収めていたという古いお店でした。時代の変換期を迎えて、「燃料屋＝灯油屋」となり、昭和40年代になると、大きな家の冷暖房はセントラルヒーティングが全盛期。燃料屋も地下タンクを作って商売するようになってきましたが、高校生の KH 様は家業を継ぐ気はなく、母上が「燃料屋では都心では続かない。もう燃料タンクは作らない」と裏の土地にアパートを建ててしまったそうです。

「確かに地下タンクを作る人を見ていたらいかにも『商売繁盛』のような気がしましたが、でも忘れもしない昭和48年のオイルショック。業界では救済措置を役所に陳情しましたが、『東京のインフラは整備されて電気・ガスに移行していきだろう。地方には配慮の余地があるが、東京にはもはや不要』という回答で、実際に世の中はそうになりました」と KH 様。その後、KH 様は家業を手伝いながら、額縁屋に見習い修行に行くことにしました。

「麻布界限にはほんとにいいお客さんが多く、明治の時代から商売をやっていた我々のようなものを大事にしてくれていたんです。私が

絵が好きだったこともあります。そういうお客さんがいる麻布であれば、『額縁屋』としても仕事になるかもと考えました」そこで当時日本1の洋画の額縁屋だった「八咫屋(やたや)古径」(2018年閉店)の門をたたいて修行し、のれん分けで「古径麻布 Cadre」という店を出すことができたそうです。「Cadre(カドル)」はフランス語で「額縁」のこと。今でもビル名に使われています。その後20数年「額縁屋」のお仕事を続けられました。

しかしバブル崩壊を迎えました。麻布の商店会でもご商売をうまくやっても、相続でもめてこの地を出て行かれる方が多かったそうです。KH 様は「額縁屋」の店舗をビルに建て替えられることにしましたが、平成23年、東日本大震災が日本を襲います。コンクリートの6層の建物が建ちあがりましたが、震災の影響が大きく、KH 様は「もう『額縁屋』はやめよう」と決心され、すべての層をテナントに貸すことにしました。

そしてコロナ禍の昨年、新たなビルを建設することになりました。「土地を持っていることも、良いお客さんに恵まれたことも、好きな仕事をできたことも運がよかった。今、商店会でポスターを手掛けてもらっている宇野亜紀良さんも『灯油屋さんだったよね』という事から話が始まりました。そういう顔なじみの中に志村けんさんもいました。本当に残念でした」と振り返られていました。

Cadre Motoazabu (カドル モトアザブ)



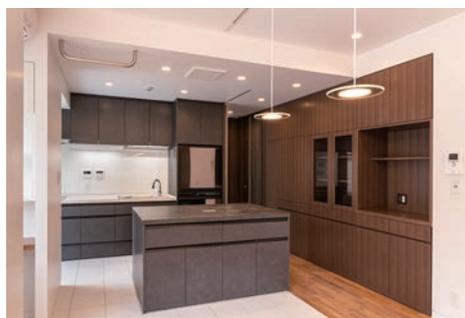
2棟の建物全景。「Cadre Motoazabu」は右側のL字型の建物

中央の吹き抜けやテラスで採光を確保

麻布十番商店街の一角の土地を相続された2家族が、新たに建物を建てられたプロジェクトです。当初、大きな一つの建物が計画されましたが、後々の事を考えて区分所有で分けられるよりは、最初から2棟に分けた計画を、と同じ設計者の設計で別工事として弊社で施工しました。

「Cadre Motoazabu」はL字型に「Laule' a Moto Azabu」の建物を囲むように建ち、隣接する納骨堂の広い通路に沿うように奥にアプローチが延びており中央に吹き抜けをはさんで採光と通風を確保しています。

テナントスペースは前面道路側に2戸(約13坪)、奥に約55坪と46坪のスペース2戸。そして最上階がオーナー邸となっています。オーナー邸の明るい玄関ポーチを入ると、キッチン・ダイニング、そしてリビングがひとつながりの空間になっており、和室はKH様のごだわりのスペースとなっています。その奥にはサッシで仕切られた書斎があり、その壁に設えられた屋内階段が屋上へと続きます。



キッチンダイニング

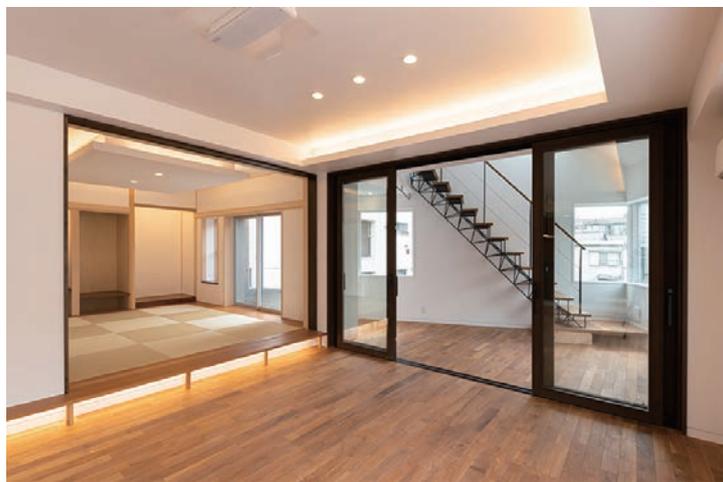


寝室。可動間仕切りの手前は子ども部屋

打ち放しコンクリートの建物が持つ力強さは表通りの「Cadre Azabujuban」と呼応するかのようによりオーナーのクリエイティブな感性を呼び起こすそうです。

コロナ禍の影響でしばらく空いていた1階にはクリニックが入ることになりました。

(編集部まとめ)



リビング+和室。鋼製のサッシの奥に書斎、屋上への階段



オーナー邸玄関



テラス。柑橘系の植栽が実をつける

構造：RC造
規模：地下1階、地上2階
用途：店舗・住宅
設計・監理：山内研/株 HOU
一級建築士事務所
竣工：2020年3月
施工担当：村山・田所・富樫
撮影：アック東京



テナントスペースへのアプローチ



1階奥のテナントスペース。バルコニーをはさんだ窓下はトップライトになっている

Laule' a Moto Azabu (ラウレア モトアザブ)

家族の団らんスペースで「STAY HOME」を乗り切る

麻布十番商店街から1本入った、大江戸線の麻布十番駅から徒歩4分、六本木駅から徒歩10分という好立地のテナント併用住宅です。

コンクリートの打ち放しの外壁で、2つのテナントは約22坪です。

オーナーのKM様は、コロナ禍で子どもたちにも外出自粛要請が始まった昨年春、やっと仮住まいだった家からこの家に引っ越すことができ、本当に良かったとおっしゃいます。

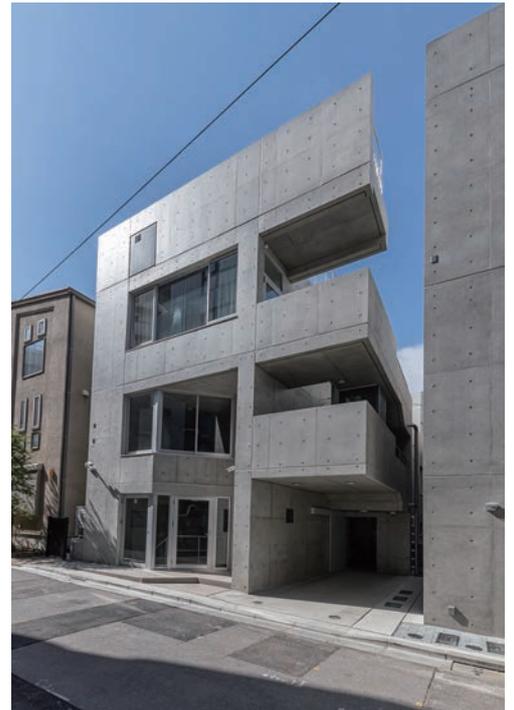
3階の玄関から左に伸びる廊下の壁の裏側にキッチン、そしてさらに階段を2段上がったところがリビングとなっています。リビングは三方に窓が開かれ、天井高は2700mmとお子様がおのびのびとトレーニングできるくらいの開放的なスペースです。

キッチンとリビングの段差を利用して、テーブルが設けられました。天板はKM様こだわりの白のクォーツストーンです。

他の居室についても内装は白で統一され、テラスでひとつながりになった最上階は、隣接する「Cadre Motoazabu」の壁面が閉じた形になっているため、その反射で明るく伸びやかなプライベート空間になっています。

前面道路側の最上階の屋上には、水回りが設けられ、BBQなどのご家族団らの場として活用されることでしょう。

(編集部まとめ)



建物全景。左側1階、2階がテナントスペース。右側の階段が建て主へのアクセスとなるが、途中階にゲートを設けてセキュリティとプライバシーに配慮している



3階リビングダイニング。天井高は2700mm、床の低いところで3000mm



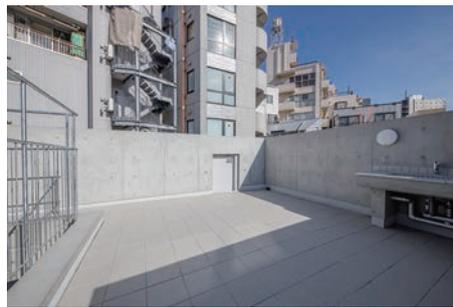
段差を利用してテーブルを設置



3階西側居室



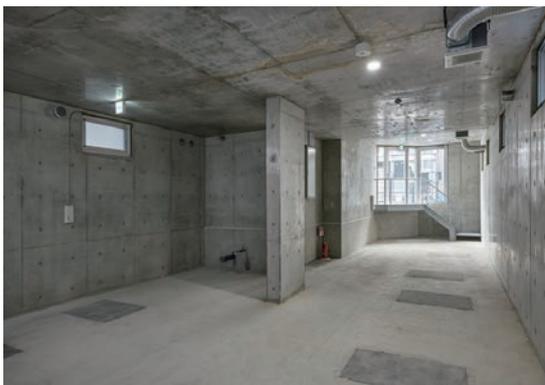
4階テラス。隣接する建物の壁は開口部を抑えている



屋上はご一家の楽しいスペース



4階居室。全ての部屋がテラスでつながる



1階貸室。前面道路から直接入れる好条件



夕景全景

構造：RC造
規模：地下1階・地上3階
用途：店舗・住宅
設計・監理：山内研/株
HOU 一級建築士事務所
竣工：2020年3月
施工担当：村山・堀内
撮影：アック東京

TOPICS/INFORMATION

2021年「住宅建築賞」に『はつせ三田』が入賞しました

SHINCLUB248号で紹介した『はつせ三田』が「2021年住宅建築賞」を受賞致しました。入賞にともない6月15日(火)、東京建築士会の定時総会にて表彰式が行われ、建築主の株式会社愛宕長谷川の長谷川氏・設計者の株式会社 ihrmk の井原氏・施工者である弊社からは代表の岩本が出席しました。受賞理由は次の通りです。

「一辺1350mmの立体格子をもとに明快な構成システムで組み立てられた共同住宅。グリッド内に収められるのは、FIXまたは縦滑り出し窓、壁のいずれかで、各住戸のエントランスは原則建物中央のEVの両サイドに配置され、法的対応で半ば自動的に決められる外形。このシステムを丁寧に運用することで、多様な住戸プラン、変化のある空間の繋がりや視線の流れを生み出した。(以下略)」
(住宅建築賞2021入賞作品集「講評」より抜粋)



記念品の盾が授与されました

構造：RC造
規模：地下1階・地上7階
用途：共同住宅
設計：井原正揮・井原佳代 / ihrmk
竣工：2019年12月



撮影：稲継泰介

「大理石の擁壁を見事に復元」 報告：カスタマー室室長 小関敏幸

弊社では新築・改修工事以外にも、さまざまな工事のご依頼をいただいています。

2020年秋頃、4年前に新築工事を行わせて頂きました建て主様の奥様から、「小関さん、またやられてしまいました」と悲しい声でご相談を頂きました。ご自宅の前面道路に面した3mを超える大理石の擁壁に車が突っ込み、当て逃げされてしまったのです。実はもうこれで3回目。つい2週間前にも同じ知らせを聞いたばかりだったのです。

大理石は、新築時に建て主様と設計者様、当社のスタッフが海外の産地にまで出向いて選び抜いてきたものでした。

ひどく落胆されている奥様のお姿に心が痛みました。天然の大理石は一品もので、同じ柄は2つとありません。どんなに色合いの似た石を貼っても、そこだけ柄が合わなければ石壁全体が台無しになってしまいます。既製品のタイルと違って、替えは効きません。

石材業者に相談しても「補修は出来ても、絶対に直した部分はわかってしまう」と最初は逃げられていました。

しかし、どうかして「建て主様に喜んでいただきたい」と想い、断る職人さんたちを説得して廻り、やっと修復作業を行うことが出来ました。職人さんたちも一度引き受けたからには、頑固一徹、時間もかかりましたが、砕けた石材を再生させて、見事に石壁がよみがえりました。

最後には4年間の自然条件によって劣化した石壁全体の艶を再生させるために、全面にコーティングの処理をして完成となりました。

建て主様ご夫妻には大変喜んでいただき、その道の専門家である建て主様から「小関さん、アートですね～」と笑顔でお褒め頂けたことは、私にとって忘れられない心の勲章になりました。

建物をただ建てるだけではなく、建てた後も建て主様に喜んでいただけるよう、これからも「辰ブランド・辰プライド」の精神でお客様に感謝いただけるような仕事を行っていききたいと思います。

Before



大きく破損してしまった外構の大理石

After



見事に復元しました



石の裏面を補強



丁寧に研磨し、滑らかに



塗料で模様を描いていく

「子供の家 地域センター」新築工事 着工 2021年6月3日



子どもたちの居場所をあちこちに散りばめた地域センターを建築させていただきます。

構造：木造
規模：地上2階
用途：寄宿舍・児童福祉施設等
設計：伊藤潤一建築都市設計事務所
完成予定：2021年12月

「仮称(S邸)」新築工事 上棟式 6月30日



お引渡しまで安全第一で建設させていただきます。

構造：RC造
規模：地下1階・地上2階
用途：専用住宅
設計：スピアナート(有)
完成予定：2021年11月

編集後記

・いよいよ東京オリンピック2020が開幕します。新型コロナウイルスの影響で開催自体が危ぶまれていましたが、感染予防をしっかり行い、頑張る選手たちを応援していきたいですね。

(株)辰通信 Vol.256 発行日2021年7月10日
編集人：松村典子/村上由衣/本間夏来 発行人：岩本健寿
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570
FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。
バックナンバーもPDFで掲載いたします。
スマホはこちらから→

